校長室から（美祢高だより）

美祢市秋芳町大字秋吉5236番地
TEL 0837-62-0144　FAX 0837-62-1303

平成２３年６月２０日
第　２　号

今、自分にできることをしたいと思って立候補しました！

５月２７日に生徒会役員の選挙が行われました。とてもうれしく感じたのは、立候補者が１３人もいたことです。現在の生徒数からすると異例の多さです。一人ひとりが決意を述べる中で印象に残ったのは、「今、自分にできることをしたいと思って立候補しました！」という言葉でした。すばらしいですね。その気持ちを何かの形として表してくれることを期待しています。いろいろな学校行事を生徒会の力で是非盛り上げてください。

「 大切なのは、どれだけたくさんのことや偉大なことをしたかではなく、どれだけ心をこめたかです 」

（「マザー・テレサ　愛の花束」より）

一致団結して、楽しくスポーツフェステバルを実施しました。

６月１０日に、今年は縦割りのチームを組んでスポーツフェスティバルを実施しました。午前中はバレーボール、午後は長縄跳びや二人三脚リレーなどを行いました。色別の対抗リレーは、梅雨の晴れ間をみつけてグラウンドで行いました。閉会式では小雨に降られましたが、すがすがしい１日でしたね。

スローガン旗の前で

「少ない人数だけど、とても団結力があります。」これは３年生の感想です。当日だけでなく前日もどこも遅くまで残って練習をしていました。学年を超えたチームがこんなに和やかなのは見ていてとてもほほえましく感じます。

山口県交通安全功労者表彰を受けました。

長年に渡る交通安全の取組が認められ、本校では、本年度山口県交通安全功労者表彰を受けました。特に、秋の交通安全運動で地域の方々と共に、家庭科で作ったマスコット人形を配布する取組は評判を呼んでいます。配布は JRC 部が中心になって行いますが、生徒会や有志も参加します。後ろでは吹奏楽部が演奏を行います。このコラボが県下では珍しいそうです

校外学習に参加して　～　皆さんの感想を紹介します

私は校外学習に参加してみて、今の自分に足りないものが何か発見できたし、これから何をどうやっていったらいいかなど、自分を見つめ直し、自分がどうあるべきか改めて考えることができた。とても貴重な体験ができた日だったと思う。私はYIC専門学校で介護福祉の講義を受け、実際に身体の右側を使わないで服を着脱することを体験した。思っていたよりも大変で難しかった。

日吉台では実際に高齢者がリハビリに励んでおられる姿を目の当たりにした。リハビリ器具の体験もさせてもらった。知らなかった知識もたくさん学び、とても充実した１日だった。（片山架穂）

YICビジネス専門学校の公務員体験コースに参加してテストを解くコツなどを教えてもらった。学ぶ上で大切なことは、「よく聞く」「周りを見る」「調べる」「疑問を解く」ということだった。自分も授業を受けるときに意識したいと思った。知らないことを学んで自分の経験値を稼いでいって社会に出たいと思っている。体験コースに参加して多くのことを学べて大変よかった。（田村比呂行）

僕たち１・２年生は「ともの園」という介護施設と伊佐のセメント工場に行き、たくさんのことを学んだ。「ともの園」は僕のイメージしていた介護施設と違い、入所者が農作業、お菓子作り、裁縫などをして働いておられるのに驚いた。また、ホームに仏壇があり、宗派を超えて入居者がお参りしておられるとのことだった。

伊佐セメント工場では、セメントの原料である石灰石やそれを加工したクリンカーを観た。それを運ぶトレーラーはものすごく大きく、８０tも積めるそうだ。運転席への試乗体験もあった。その後もいろいろなものを見せていただき、とてもよい経験になった。（加藤一樹）

福祉施設などへ行くのは初めてではなかったが、高校１年になって行ってみると、感じるものはどこか違った気がする。初めのお話で聞いた「介護する側もされる側も平等」ということや、「人との出会いは一期一会」という話には共感した。平等や一期一会というのはこれからの高校生活や社会に出てからも大事なことではないか。人と接することで、たとえ相手に障がいがあっても、学べることはたくさんあると思う。

伊佐セメント工場では、自然の偉大さに驚かされた。何億年もかけて作り出されたものが、今の私たちに何気なく関わっているのだと感じた。個人的には８０tもある特大車が印象に残っている。最後に行った宇部興産iプラザの見学も楽しかった。今日１日とても勉強になったし、楽しかった。（下間琴美）

「ともの園」の阿野さんのお話で２つ心に残った。障がいを持つ家族や高齢者を施設に入れても預けっぱなしにせずに、１週間に１度必ず会いに来る人がいるということ。もう一つは、世話をしてもらうことを嫌がったり、「すまんね」と謝る人たちに、「私もいずれは若い人たちの手を借りないといけなくなる。順番じゃから威張ってやってもらってくださいと言うようにしている。」と言われたことだ。

鉱山では石灰の山を爆破し、ダンプでクラッシャーというところに運び小さくしている。そこで加工されたクリンカーは国内のいろいろなところに運ばれている。日本では工業製品の原材料はほとんど輸入だが、セメントは例外だそうですごいと思った。この工場は自家発電で工場内の電力をすべてまかなっているそうだ。（奥村真伍・塩川雄斗）